



建築用シート防水材料のメーカー団体

KRK (合成高分子ルーフィング工業会) <http://www.krkroof.net/>

〒103-0005 東京都中央区日本橋久松町9-2 日新中央ビル3F
TEL.03-6206-2928 FAX.03-6661-9034 E-mail:krkroof@krkroof.net

合成高分子ルーフィング工業会
<http://www.krkroof.net/>

KRK

シート防水材料に関する情報誌

2011

vol.6

K R K 会 員

アーキヤマデ株式会社

〒564-0053 大阪府吹田市江の木町24-10
TEL.06-6385-1265 <http://www.a-yamade.co.jp/>

アサヒゴム株式会社

〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町9-4 イーピア日本橋小舟町ビル
TEL.03-5614-9395 <http://www.asahi-gomu.co.jp/>

岩尾株式会社

〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町3-3-9 本町岩尾ビル
TEL.06-6251-1555 <http://www.iwao-tokyo.co.jp/>

三晃金属工業株式会社

〒108-0023 東京都港区芝浦4-13-23 MS芝浦ビル
TEL.03-5446-5606 <http://www.sankometal.co.jp/>

シバタ工業株式会社

〒674-0082 兵庫県明石市魚住町中尾1058
TEL.078-946-1515 <http://www.sbt.co.jp/>

住ベシート防水株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川2-5-8 天王洲パークサイドビル
TEL.03-5462-8960 <http://www.sunloid-dn.jp/>

田島ルーフィング株式会社

〒101-8579 東京都千代田区岩本町3-11-13
TEL.03-5821-7721 <http://www.tajima-roof.jp/>

東洋ゴム化工品販売株式会社

〒162-8622 東京都新宿区天神町10 安村ビル2F
TEL.03-3235-1713 <http://www.toyo-roofing.com/>

西日本バンドー株式会社

〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島6-1-1
TEL.06-4806-3065 <http://www.west-bando.co.jp/>

長谷川化学工業株式会社

〒276-0022 千葉県八千代市上高野1384-5
TEL.047-484-7141 <http://www.hasegawakagaku.co.jp/sanAsheet>

早川ゴム株式会社

〒721-0957 広島県福山市箕島町南丘5351
TEL.084-954-7801 <http://www.santac.or.jp/>

三ツ星ベルト株式会社

〒653-0024 兵庫県神戸市長田区浜添通4-1-21
TEL.078-685-5771 <http://www.mitsuboshi.co.jp/>

ロンシール工業株式会社

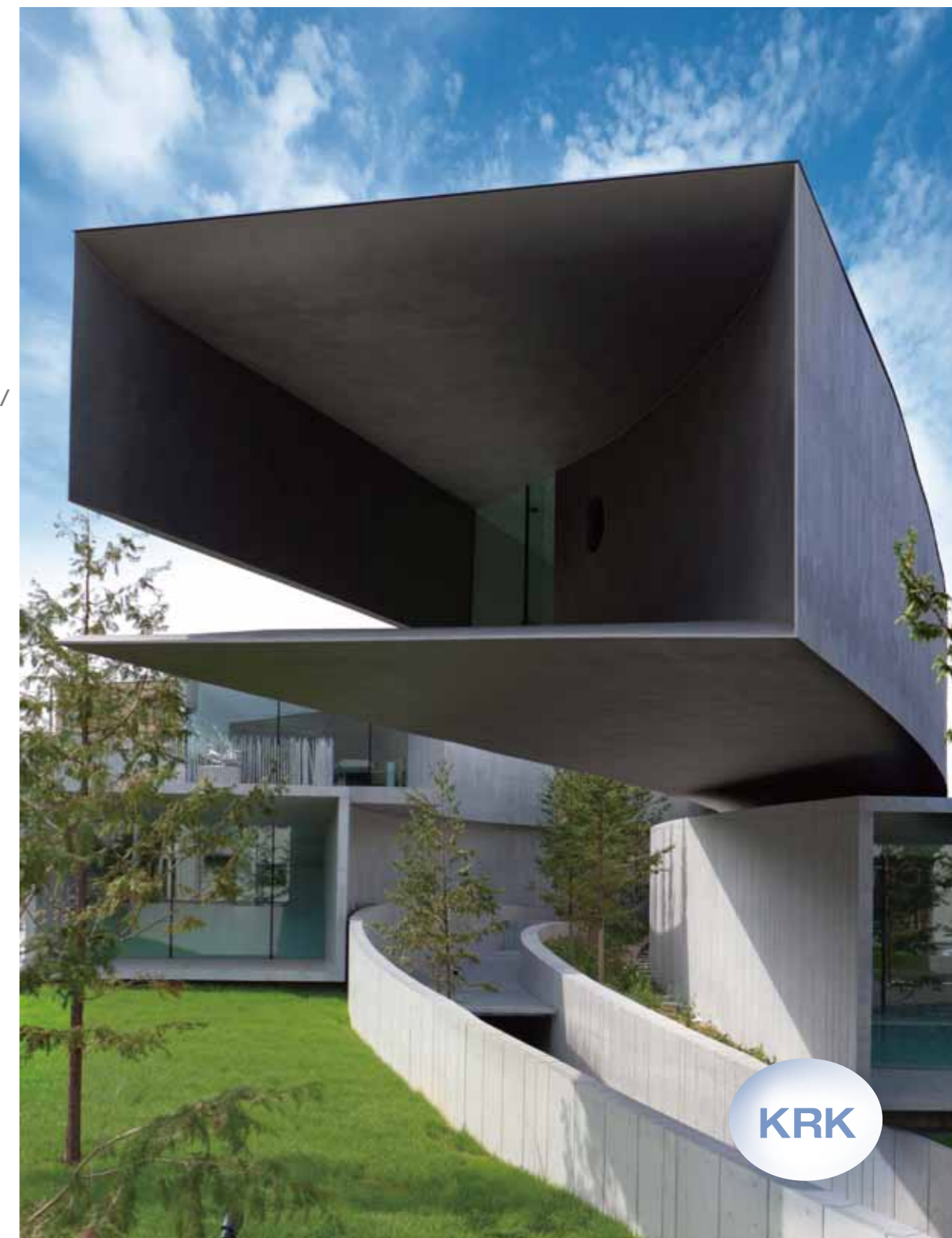
〒130-8570 東京都墨田区緑4-15-3
TEL.03-5600-1866 <http://www.lonseal.co.jp/>

賛 助 会 員

古河電気工業株式会社…………… 03-3286-3461
峰岸株式会社…………… 03-3274-1726
日本ヒルティ株式会社…………… 045-943-6211
株式会社山装…………… 045-781-7821
日本パワーファスニング株式会社…………… 03-3639-2310

ソトウ株式会社…………… 045-322-0720
株式会社カネカ…………… 03-5574-8070
株式会社シュナイダー・ジャパン…………… 03-3537-3355
亜細亜工業株式会社…………… 03-3895-4041
フィッシャー・ジャパン株式会社…………… 03-3263-4491

- 1 KRKの概要
- 2 ごあいさつ
- 3 シート防水の特長
- 4 シート防水材・工法
- 5 シート防水施工事例
- 6 シート防水施工事例
【改修】
- 7 CASBEE®
- 8 防火と耐火
- 9 トピックス
- 10 KRK広報誌に寄せて/
東京工業大学名誉教授
田中享二
- 11 KRK会員名簿



KRKの概要

KRKの歴史と実績

History

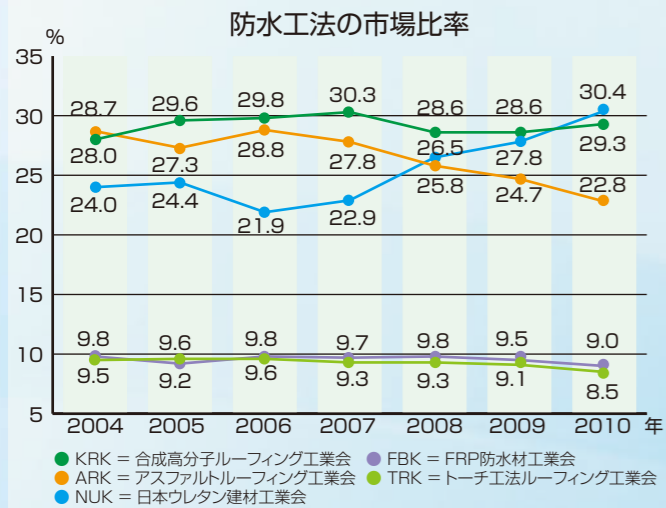
KRKはシート防水の品質向上と施工技術の標準化に積極的に取り組んでいます。

歴史

KRKは合成高分子ルーフィングシートのJIS制定を機に1970年「合成高分子ルーフィング懇話会」として設立されました。シート防水の普及を通じて建築・土木の防水技術の発展に貢献し、品質向上と製品の安定供給、工法の研究と開発を目的として活動を始め、1978年現在の組織に改組し42年にわたる歴史を歩んでまいりました。

実績

KRKは製品や工法の革新にむけ、常に意欲的に取り組んで来ました。建築業界を取り巻く激しい環境の変動にも柔軟に対応し、新築工事だけでなく改修需要への対応も行っています。



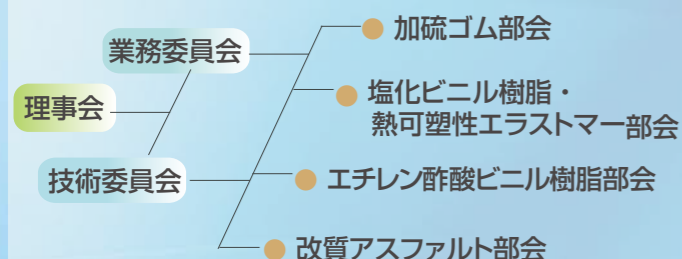
出展：2010年度 JWMA 統計

KRKの構成

Composition

KRKは防水シートの優良メーカーで構成されており、組織は以下の通りです。

組織・運営



KRKの活動

Activity

KRKは関係各方面のご支援を賜り、活発な活動を展開しています。

官公庁への協力

公共建築工事標準仕様書及び公共建築改修工事標準仕様書改訂への協力
国土交通省 総合技術開発プロジェクト(第2総プロ)への協力

建築学会における活動

KRKは建築学会活動にも積極的に取り組んでいます。

JASS8改定作成協力

日本建築学会作成の「建築工事標準仕様書・同解説 JASS 8防水工事」の改定作業に協力しています。

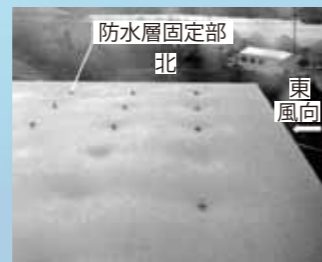


2010年度建築学会北陸大会での発表

- ・強風下における機械的固定工法による防水層の挙動
- ・防水材料の耐候性

2010年度ワーキンググループ活動

- ・防水システム性能耐久性評価試験方法WG
- ・防水層機械固定工法耐風性評価WG
- ・耐根シート試験法研究会
- ・防水層劣化診断法WG
- ・近赤外反射シートWG
- ・蓄熱層断熱防水小委員会
- ・地下壁先やり外防水設計法WG



KRK会員向け研修会

シート防水普及のため、各地で研修会を実施しています。
2010年度研修会(東京、大阪)
テーマ:屋上防水調査マニュアル/シート防水マニュアル/建築学会発表内容紹介/KRKホームページ紹介

関係諸団体への協力

■一般社団法人 日本防水材料連合会 (JWMA)

- ・「建築・建材展」への出展協力
- ・日中韓防水シンポジウムへの参画
- ・中国建築防水展覧会への出展



「建築・建材展」出展の模様

JWMAは、平成23年4月より一般社団法人日本防水材料連合会として新たなスタートを切りました。

■全国防水工事業協会 (JRCA)

- ・「防水施工法」改定への協力

シート防水に関する情報発信 <http://www.krkroof.net/>

KRKのホームページを通じて、材料の品質向上、環境負荷低減など最新技術情報の発信を行っています。



■技術資料

防水シートに関する規格や防水層の性能評価方法、諸性能、施工や補助材料、メンテナンス等について掲載しています。

■仕様と施工

各種仕様、防火性能、各工法別施工手順や納まり図を掲載しています。

■出版物

当工業会の発行するマニュアルのご紹介やパンフレットPDFのダウンロードができます。

■Q&A

耐風圧性能などよくご質問いただく事柄をQ&Aにまとめました。

KRKの出版物

KRKはシート防水の品質向上のため、施工マニュアルやパンフレット、技術資料、仕様書、規格書など様々な発刊物を作成しています。



大震災を エポックメイキングとして



合成高分子ルーフィング工業会会長

仲野 定

合成高分子ルーフィング工業会(略称KRK)42年の歴史の中で、今年には1000年に一度の激動の年を迎えることとなりました。

本年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災は未曾有の大災害を与えました。被災された地域の皆様には、心よりのお見舞いを申し上げます。

また福島原発の放射能漏れ事故も係り復興への青写真も描けぬ事態となっております。

この度の災害は従来の価値観を根底から覆す出来事です。安い物が尊ばれる時代から、良い物(安全)はコストがかかる物という価値観の転換が地球規模的に広がるでしょう。

私どもKRKは時代のニーズを先取りして地球にやさしく、環境にやさしい材料、システム等開発してまいりましたが、この大震災をエポックメイキングとして、さらなる環境問題への取り組みを積極的に進化させ、少しでも社会貢献できる様、会員各社が一丸となって精進してまいる所存です。

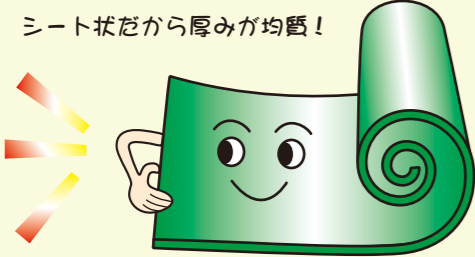
関係各位の倍旧のご支援・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

シート防水の特長

シート防水材の特長を上手く生かすことで、信頼性の高い防水層を実現しています。

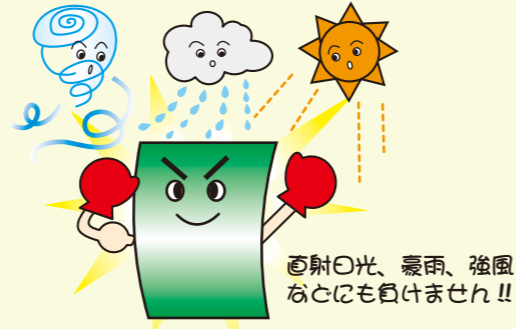
1 merit ▼均質な防水層を形成します

品質管理された工場において、シート状に製造されているため、物性・寸法(厚さ・幅・長さ)などのばらつきが少なく、均質な防水層を形成します。



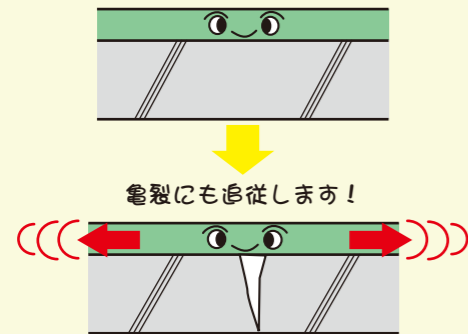
2 merit ▼耐久性に優れています

使用している材料は、耐候性・耐水性・耐熱性等に優れるため、露出でも優れた耐久性を発揮します。



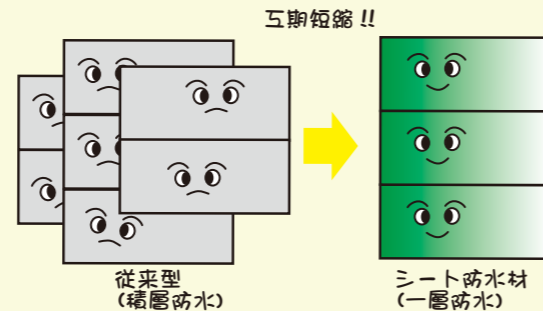
3 merit ▼下地の挙動に追従します

シートをスレート板に張り付けた実験では、50mm幅でも破断しません。



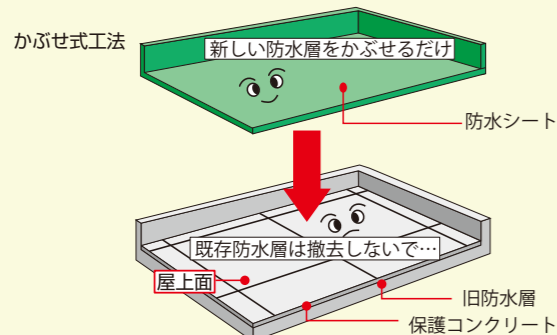
4 merit ▼工程が少なく、工期短縮が図れます

シート防水はシングルプライ(一層防水)のため、工程が少なく、工期短縮が図れるほか、工程管理が容易になります。



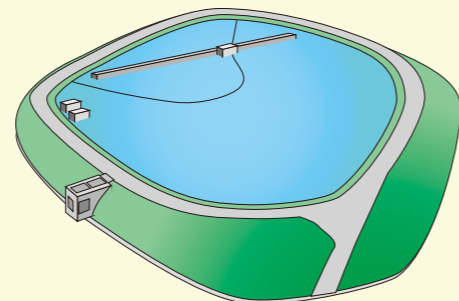
5 merit ▼かぶせ工法が可能です

改修工事の際、既存防水層を撤去せず、新規シートをかぶせて施工できます。



6 merit ▼土木工事にも採用されています

遮水、貯水池、用水路などの防水工事に採用されています。



シート防水材・工法

シート防水には様々な仕様・工法があります。ここでは公共建築物に採用されている公共建築工事標準仕様書等をご紹介します。その他の仕様・工法についてはKRKホームページをご覧ください。

公共建築工事標準仕様書(平成22年度版P136)・公共住宅建設工事共通仕様書(平成19年度版P156)

工法	接着工法				機械的固定工法					
	S-F1		S-F2		S-M1		S-M2		S-M3	
種類	材料・工法	使用量(kg/m ²)	材料・工法	使用量(kg/m ²)	材料・工法	使用量(kg/m ²)	材料・工法	使用量(kg/m ²)	材料・工法	使用量(kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2 (0.3)	プライマー塗り	— (0.3)	—	—	—	—	—	—
2	接着剤塗布	0.4	接着剤塗布	0.4	絶縁用シート敷設	—	—	—	絶縁用シート敷設	—
3	加硫ゴム系ルーフィングシート張付け	—	塩化ビニル樹脂系ルーフィングシート張付け	—	加硫ゴム系ルーフィングシートの固定金具による固定	—	塩化ビニル樹脂系ルーフィングシートの固定金具による固定	—	熱可塑性エラストマー系ルーフィングシートの固定金具による固定	—
4	仕上塗料塗り	0.25	—	—	仕上塗料塗り	0.25	—	—	—	—

(注) ALCパネルの場合は工程1を()内とする。

公共建築改修工事標準仕様書(平成22年度版P51)

工法	接着工法				機械的固定工法					
	S-F1 (SI-F1)		S-F2 (SI-F2)		S-M1 (SI-M1)		S-M2 (SI-M2)		S-M3 (SI-M3)	
種類	材料・工法	使用量(kg/m ²)	材料・工法	使用量(kg/m ²)	材料・工法	使用量(kg/m ²)	材料・工法	使用量(kg/m ²)	材料・工法	使用量(kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2 (0.3)	プライマー塗り	— (0.3)	—	—	—	—	—	—
2	(接着剤/断熱材)	—	(接着剤/断熱材)	—	(防湿用フィルム/断熱材)	—	(防湿用フィルム/断熱材)	—	(防湿用フィルム/断熱材)	—
3	接着剤塗布	0.4	接着剤塗布	0.4	絶縁用シート敷設	—	絶縁用シート敷設	—	絶縁用シート敷設	—
4	加硫ゴム系ルーフィングシート張付け	—	塩化ビニル樹脂系ルーフィングシート張付け	—	加硫ゴム系ルーフィングシートの固定金具による固定	—	塩化ビニル樹脂系ルーフィングシートの固定金具による固定	—	熱可塑性エラストマー系ルーフィングシートの固定金具による固定	—
5	仕上塗料塗り	0.25	—	—	仕上塗料塗り	0.25	—	—	—	—

(注) 1. ALCパネル下地の場合は、工程1を()内とする。
2. ALCパネル下地の場合は、機械固定工法は適用しない。
3. 断熱材を用いる場合は、SI工法とし、断熱材の種類、厚さは特記による。
4. 断熱材を用いる場合で、機械固定工法の場合は、SI-M1およびSI-M3では工程3(絶縁用シート敷設)を行わない。

仕様番号対応表

シート防水	工法	材料	公共建築工事標準仕様書仕様記号	JASS8	KRK工法記号
	接着工法	加硫ゴム系	S-F1	S-RF,S-RFT	RV-F101,RV-F201,RV-F102,RV-F301W,RV-F401,RV-F501DW,RV-F401PS
塩化ビニル樹脂系		S-F2	S-PF,S-PFT	RP-F101,RP-F201,RP-F102,RP-F301,RP-F401,RP-F501,RP-F501D	
TPE系		—	—	RT-F101,RT-F201,RT-F102	
機械的固定工法	加硫ゴム系	S-M1	S-RM,S-RMT	RV-M101,RV-M201,RV-M102,RV-M401,RV-M501D,RV-M403	
	塩化ビニル樹脂系	S-M2	S-PM,S-PMT	RP-M101,RP-M102,RP-M401,RP-M501,RP-M501D,RP-M403	
	TPE系	S-M3	※1	RT-M101,RT-M201,RT-M102,RT-M401,RT-M403	
密着工法	EVA系	—	S-PC	RE-F101,RE-F201,RE-F102,RE-F301,RE-F501D	
	非加硫ゴム系	—	※2	RN-F101,RN-F201,RN-F102,RN-F301W,RN-F401,RN-F501DW	

※1 JASS8においてはポリオレフィン系シートとして機械的固定工法に分類されている。
※2 JASS8においては参考仕様の接着工法として紹介されている。

シート防水施工事例

露出仕様 コンクリート下地

豊富な色彩と軽量かつ優れた防水機能を生かした、標準的な仕様です。



保護仕様

防水層の上を乾式ブロックなどにより保護する仕様です。保護コンクリートに比べ軽量に歩行仕様が実現できます。



プール防水工法

塩化ビニル樹脂系シートの高い水密性を活かし、プール防水にも採用されています。プールサイドには、カラフルな防水シートをご使用いただけます。



露出仕様 金属下地

防水下地にデッキプレートや折版などの金属材を用いた工法です。RC下地と比べ、屋根荷重が軽くなり、工期も短くできます。



地下防水工法

地下空間の躯体を保護する地下外壁防水です。型枠設置時に施す先やり工法とコンクリート打設後に施す後やり工法があります。



土木防水

廃棄物処分場、貯水池、用水路等の遮水・防水工事に採用されています。



シート防水施工事例【改修】

露出防水

既存防水層を撤去しないかぶせ工法が可能です。廃材の抑制、工期短縮、施工時の漏水リスク低減といった効果があります。

Before



After



保護コンクリート

保護コンクリートを撤去しないかぶせ工法が可能です。高反射仕様や断熱材との組み合わせによりヒートアイランド抑制に貢献します。

Before



After



金属屋根

折版や瓦棒など金属屋根の改修工法です。高い断熱効果が得られると共に、軽量に仕上がりが建物に負担をかけません。

Before



After



1. CASBEE®

CASBEE(建築環境総合性能評価システム)とは、建築物の環境性能を総合的な視点で評価するための手法で、(社)日本サステナブル建築協会内に設置された建築物の総合環境評価研究委員会及び傘下の小委員会がその主体的運営にあたっています。

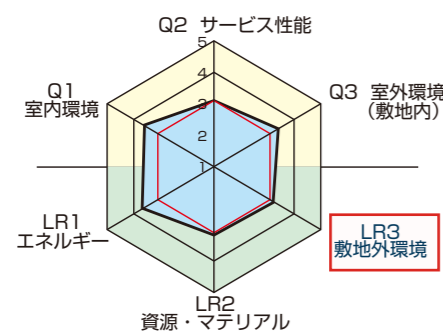
CASBEE には企画/新築/既存/改修の4つの評価ツールがあります。

主なスコアシートの配慮項目

Q 建築物の環境品質
Q1 室内環境
Q2 サービス性能
Q3 室外環境(敷地内)
LR 建築物の環境負荷低減性
LR1 エネルギー
LR2 資源・マテリアル
LR3 敷地外環境
1. 地域温暖化への配慮
2. 地域環境への配慮
2.2 温熱環境悪化の改善
3. 周辺環境への配慮

CASBEE-新築(簡易版)より抜粋

評価結果 レーダーチャート



日射反射率、長波放射率の基準値の例

評価者	日射反射率	長波放射率	推進事業、規格等
社団法人日本塗料工業会	明度L'値が40.0以下の場合、近赤外線における日射反射率が40.0%以上であること、明度L'値が40.0を超える場合は、近赤外線における日射反射率(%)が明度L'値の値以上であること。	—	JPMS27耐候性屋根用塗料(2009年)
合成高分子ルーフィング工業会	近赤外線(波長:780nm~2500nm)において50.0%以上	—	KRK S-001 高反射率防水シート規格(2008年)
東京都	50%以上(灰色)第三者機関にて測定	—	クールルーフ推進事業(2006年)

注)長波放射率は、塗料、防水シートに関しては、何れの製品も0.9程度であり基準値が設定されていないが金属屋根などの場合に小さな値になる場合が多いため注意する必要がある。

CASBEE-新築(簡易版)2010年版P-207より抜粋

2. 温熱環境悪化の改善

「LR3 敷地外環境」のうち「2.地域環境への配慮」の中で「2.2 温熱環境悪化の改善」において、緑化と高反射材料が取り上げられており、屋根面の緑化等と高反射材料の選定により敷地外への熱的な影響を低減するという観点で評価ポイントが加算されます。

KRKでは工業会規格として、2008年に「KRKS-001」として高反射率防水シートの規格値を定め、環境省、国土交通省等関係省庁へのPRを行ってまいりました。CASBEE 2010年版では補助資料に(社)日本塗料工業会規格とともにKRK規格が紹介されています。

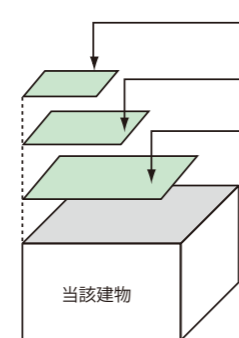
高反射材料の経年による性能変化について、CASBEEでは補助資料の項に2年間の屋外曝露試験後の日射反射率が初期値の80%以上が望ましいとしていますが、壁など汚れが流れ落ちやすい環境で使用される塗料とフラットな屋根で使用される防水材との使用環境の差異についてはまだ議論のあるところです。

高反射材料各メーカーの材料性能値については、各社ホームページまたは環境省のホームページに掲載されています環境技術実証モデル事業の項をご参照下さい。

屋根面対策面積率の計算とポイント数

$$\text{屋根面対策面積率} = \frac{\text{屋根面における蒸散効果のある材料による被覆面積率} + \text{屋根面高反射対策面積率}}$$

- ① A < 20% → (1ポイント)
- ② 20% ≤ A < 40% → (2ポイント)
- ③ A ≥ 40% → (3ポイント)

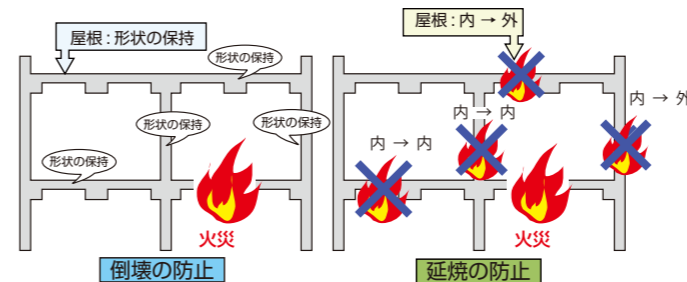


1. 耐火

耐火は内からの火災に対し構造耐力上支障のある変形、溶融、破壊その他の損傷を生じないように規定しています。

屋根の耐火構造・準耐火構造に関する法・令・告示

- (1) 建築基準法第2条七 耐火構造 準耐火構造
- (2) 建築基準法施行令107条、108条、109条
- (3) 告示第1358号、第1399号

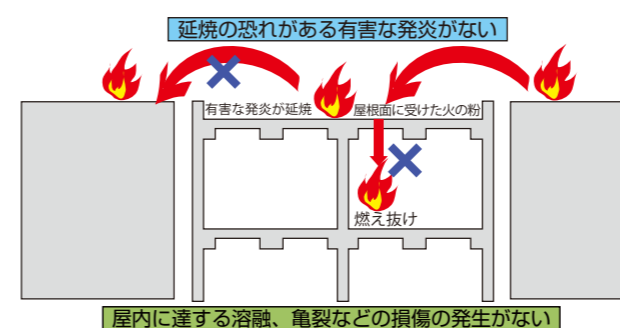


2. 防火

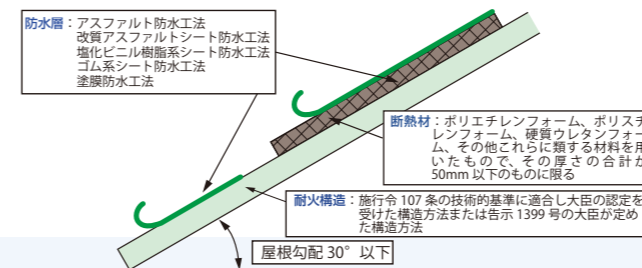
防火では外からの火災に対し延焼の恐れがある有害な発煙がないこと、屋内に達する溶融、亀裂などの損傷がないことを要求しています。

屋根の防火に関する法・令・告示

- (1) 建築基準法第22条、第25条、第63条
- (2) 施行令108条、109条、136条、
- (3) 告示第1365号、第1399号



告示1365号三 例示仕様



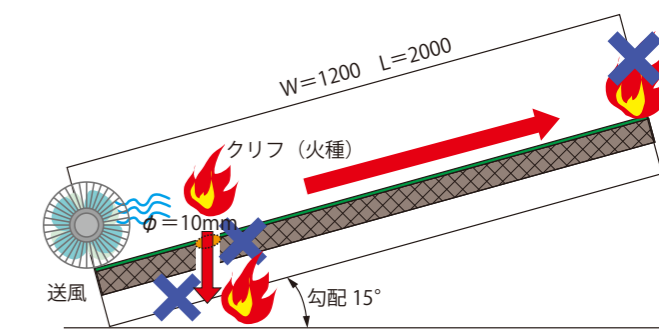
施行令136条2の2

告示第1365号及び第1399号の「技術的基準」を示し、第1365号三に示した例示以外の仕様については別途試験方法が定められている。(一般名称「飛び火試験」)

3. 技術的基準に適合する屋根の構造方法の試験 (一般名称:「飛び火試験」)

建築基準法第22条第1項(屋根)及び同63条(屋根)の規定に基づく認定試験。

試験方法: ISO/CD12468(Test Method for External Fire Exposure to Roofs)準拠



判定: 試験条件において、法63条試験用の火種を使用した加熱試験の結果、各試験体が次の基準を満足する場合は、令第136条の2の2第1号及び第2号に掲げる要求を満足するものとする。又(イ)の要件を満足するものは、令第136条の2の2第1号に掲げる要求を満足するものとする。

- (イ) 試験中、試験体の燃焼による火災の先端部が、試験体の底辺及び底辺から上部2000mm、かつ長手方向対称軸から左右600mmを超えないこと。
- (ロ) 試験中、試験体の裏面で火災を伴う燃焼が観察されないこと。
- (ハ) 試験中又は試験終了後の測定において、最大部分が10×10mmを超える貫通孔が観察されないこと。

上記試験を経て合格と認定されたものには、適合認定番号として「DR-〇〇〇〇」が与えられます。

飛び火試験のようす(施行令で定められた試験方法による)



トピックス

KRKでは次世代に向けた新たな取り組みをしています。

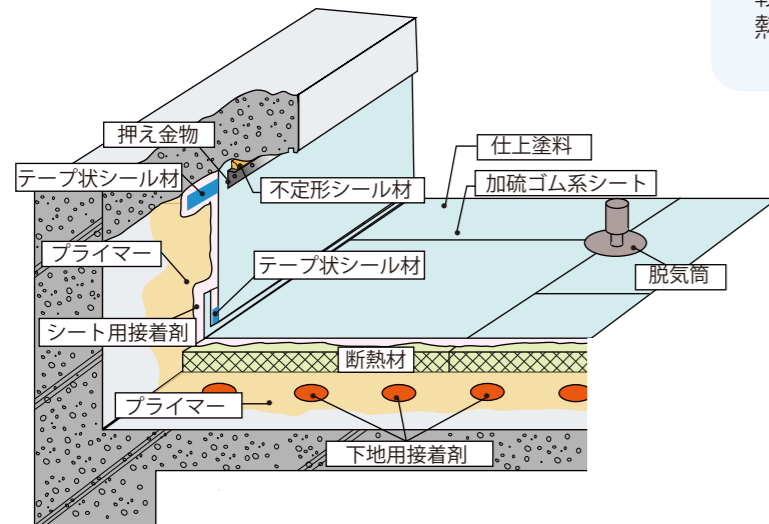
1. KRK標準仕様の追加制定

加硫ゴム系シート防水接着断熱工法押出法ポリスチレンフォーム仕様「RV-F401PS」

加硫ゴム部会では、実績有る加硫ゴム系シートの接着工法で断熱性能と価格のバランスに優れたポリスチレンフォームを断熱材に適用した外断熱防水仕様を開発し、KRK工法記号「RV-F401PS」として制定しました。今回採用したポリスチレンフォームは、従来に比べ右記の特徴を有しています。

専用断熱材の特徴

- ・従来のポリエチレンフォーム2種に比べ同じ厚さで1.4倍の断熱性能。
- ・従来より断熱工法で使用している3種bタイプと比較し、耐熱温度を向上させた専用品で、硬さ及び耐熱性、寸法安定性が良好。



工法概要

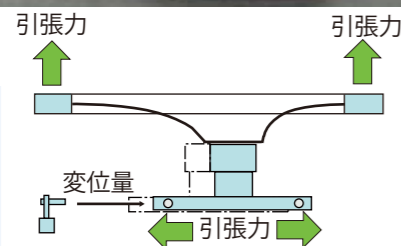
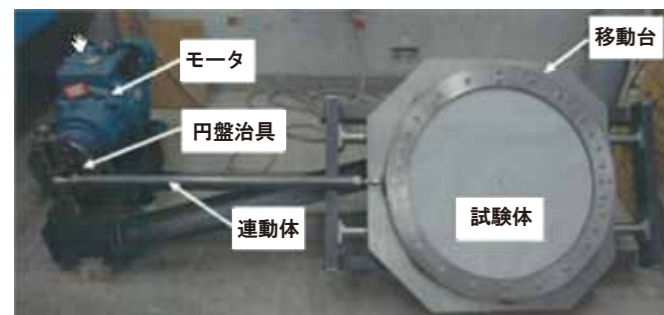


断熱材の接着施工状況

2. 建築学会における各種WG活動への参画

1) 機械的固定工法防水層の耐風性能評価法WG

建築学会における外装材の風被害軽減活動の一環として、東京工業大学田中名誉教授によるご指導、ご尽力のもと、これまで実施してきた屋外での強風下における固定部への応力測定結果を元に、固定部の横力を加味した疲労試験方法を検討、耐風圧性能検証方法の標準化を検討しています。



評価試験状況

2) 高日射反射率防水WG

高日射反射率防水シートの屋外暴露による反射率性能変化確認及び屋外暴露試験の試験方法標準化を目的として、2009年4月より全国6箇所での屋外暴露を開始し、反射率変化確認を継続実施しています。2012年3月までの3年間の評価を実施し、その結果については学会大会での随時報告を予定しています。



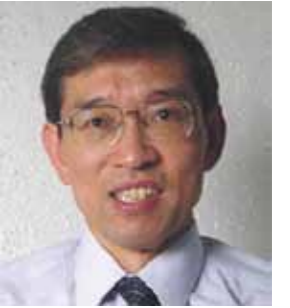
暴露試験状況

(KRK技術委員会)

KRK広報誌に寄せて

シート防水は寿命60年までゆけるか

東京工業大学 名誉教授 田中享二



最近本当に驚いたことがある。今年の4月にポルトガルで開催されたDBMC(建築材料・部材の耐久性)国際会議のことである。友人のTom Hutchinson氏が衝撃的なプレゼンテーションをした。EPDMシート防水は寿命60年というのである。近年、我が国でも防水層の長寿命化が叫ばれ、それに向かって努力がなされているが、高耐久と称するものでも最大は30年、大方は20年位がせいぜいである。

ご存じのようにアメリカは産業としてゴム工業が盛んで、ゴムシート防水が大きなシェアをもつ。彼は屋根・防水のコンサルタントであり、そのせいでゴムシートを使う機会が多かったのだと思うが、60年位はもつのだろうというのである。

これから書きたいことは、そのようなことを我が国で発言できるかということである。結論から言うと、まあ難しい。もし我が国でそんな発言すれば、まず誰も本気にしないし、場合によっては、技術者としての常識を疑われるかもしれない。しかしTomは米国屋根コンサルタント協会の会長を務めた、防水に責任ある立場の人物である。いい加減なことを言うはずはない。

ただ彼の主張は落ち着いて聞く必要がある。彼が実務で担当したEPDMシート防水屋根に限っていえば、手入れさえしっかり行えば60年位は行けそうだというのである。その根拠は材料劣化が少なかったことにある。

実は、欧米の建築材料評価では経験を大切にする。我が国のように、限られた時間での促進試験結果をもとに、60年持ちますというようなウソっぽい言い方はしない。あくまでも実建物でのデータをもとに議論する。数年前の国際

会議でも、塩ビシート防水の寿命30年という報告も聞いたが、これも実際の建物の調査が裏付けとしてあった。そして我が国シート防水も多分それくらい行けるのではないかと、個人的には思っている。日本の技術と欧米の技術には、もはや決定的な差はないし、材料品質を規定する規格類も似たレベルにある。特にシート材料は工場で高品質の製品を作ることができるので、その面からも安心である。だから私以外にも、メンテさえしっかりすればそのくらいは行けるよ、と内心思うシート防水の技術者はいるのではないか。

ただ我が国ではこのようなことを、思い切って言いにくい雰囲気にある。理由は保証制度にある。特に保証という用語の背後に横たわる「寿命」の解釈にある。防水層が長持ちする意味での寿命と、絶対に漏水を起こしてはならない期間の意味での寿命、とが混乱して理解されることが多いためである。防水層を供給する側は、60年も保証されてはたまらない。お金の問題もあるけれども、そもそもそんなに長生きして、修繕しつづけることができるかどうかもわからないからである。一方消費者にとっては、保証制度は安心材料である。

わかりやすく言うと「寿命」という言葉への期待が、防水層の供給側と消費者側で異なっている。このような混乱を回避するために、実務的な観点からの「柔らかな意味での寿命」と法律上の「固い意味での寿命」とを取り入れた、二段構えの仕組みをうまく作ることができないものであろうか。一度シート防水で考えてみてはどうか。60年を視野に入れると、いくらでも丈夫な材料を供給できるシート防水が、最も考えやすいところにいると思うからである。



表紙写真：ホキ美術館

設計:株式会社 日建設
施工:株式会社 大林組
所在地:千葉県千葉市緑区
用途:美術館
竣工:2010年9月
延床面積:3,720㎡

ホギメディカルの創始者である保木将夫氏が収集したコレクション300点を展示しています。自ら館長を務め、日本初の写真絵画専門美術館として平成22年11月に開館しました。こちらでは、塩化ビニル樹脂系シートおよびエチレン酢酸ビニル樹脂系シート防水が採用されました。